

ウィンドプロファイラ観測データ フォーマット ~ 配信資料に関する仕様 No.13601より抜粋 ~

BUFR4版				
ファイル名:	Z_C_RJTD_yyyyMMddhhmmss_WPR_SEQ_RS-all_Pww_buf4.bin			
オクテット番号	ビット数	説明	ダンプ例 16進表記	
第0節 (指示節)	1~4	32	国際アルファベット No5による記述で BUFR	42 55 46 52
	5~7	24	BUFR報全体の長さ	xx xx xx
	8	8	BUFR報の版番号(4)	04
第1節 (識別節)	1~3	24	第1節の長さ(オクテット単位)通常は22	00 00 16
	4	8	BUFRマスター表(標準は0)	00
	5~6	16	作成中枢の識別(共通符号表C-11参照)(東京=34)	00 22
	7~8	16	作成副中枢の識別(副中枢ではない=0)	00 00
	9	8	更新一連番号(未更新の元のBUFR報を0とし,更新する毎に1を加える)	xx
	10	8	任意節を含まない(第1ビットを0)	00
	11	8	鉛直観測資料(衛星を除く=2)	02
	12	8	国際的な資料副カテゴリ(ウィンドプロファイラ観測報=10)	0A
	13	8	地域的な資料副カテゴリ 資料の副カテゴリ(中枢で定義=0)	00
	14	8	マスター表のバージョン番号(現行=12)	0C
	15	8	マスター表に加えて使用したローカル表のバージョン番号(=1)	01
	16~17	16	年(電文作成年月日時分)(2001年=2001)	xx xx
	18	8	月	xx
	19	8	日	xx
	20	8	時	xx
	21	8	分	xx
	22	8	秒	xx
第3節 (資料記述節)	1~3	24	第3節の長さ(オクテット単位)(通常は51)	00 00 33
	4	8	保留=0	00
	5~6	16	データサブセットの数(観測局の数)	00 xx
	7	8	観測資料・非圧縮=10000000	80
	8~9	16	WMOブロック番号(0-01-001)	01 01
	10~11	16	WMO地点番号(0-01-002)	01 02
	12~13	16	緯度(低精度)(0-0 5-002)	05 02
	14~15	16	経度(低精度)(0-0 6-002)	06 02
	16~17	16	観測所の標高(アンテナの海拔高度)(0-07-001)	07 01
	18~19	16	使用測器(0-02-003)	02 03
	20~21	16	年(0-04-001)	04 01
	22~23	16	月(0-04-002)	04 02
	24~25	16	日(0-04-003)	04 03
	26~27	16	時(0-04-004)	04 04
	28~29	16	分(0-04-005)	04 05
	30~31	16	時間の特定(0-08-021)	08 15
	32~33	16	期間(0-04-0 25)	04 19
	34~35	16	遅延反復(1-07-000)	47 00
	36~37	16	反復回数(0-31-001)	1F 01
	38~39	16	観測点のアンテナからの高さ(0-07-006)	07 06
	40~41	16	ローカル記述子資料幅(2-06-008)	86 08
	42~43	16	品質管理情報(別表)(0-25-192)	19 00
	44~45	16	風の東西成分(0-11-003)	0B 03
	46~47	16	風の南北成分(0-11-004)	0B 04
	48~49	16	風の鉛直成分(0-11-006)	0B 06
	50~51	16	S/N比(0-21-030)	15 1E
第4節 (資料節)	1~3	24	第4節の長さ(オクテット単位)	xx xx xx
	4	8	保留=0	00
	5~	7	WMOブロック番号	
		10	WMO地点番号	
		15	緯度(低精度)(0.01度)	
		16	経度(低精度)(0.01度)	
		15	観測所の標高(アンテナの海拔高度m)	
		4	使用測器(ウィンドプロファイラ=6)	
		12	年	
		4	月	
		6	日	
		5	時	
		6	分	
		5	時間の特定	
		12	期間	
		8	反復回数(Y)	
		15	観測点のアンテナからの高さ(m)	} Y回反復
		8	品質管理情報(別表)	
		13	風の東西成分(0.1m/s)	
		13	風の南北成分(0.1m/s)	
		13	風の鉛直成分(0.01m/s)	
		8	S/N比(dB)	
		?	4節が8ビット(オクテット)の整数倍となるよう値0のビットを付加	
第5節 (終端節)	1~4	32	国際アルファベット No5による記述で7777	37 37 37 37

・第4節の反復回数Yは観測できた層の数(観測最高高度)により変化する。

(2) ウィンドプロファイラデータ品質管理情報 (0-25-192)

ビット番号	
1	品質良好
2	時空間チェック (二次曲面チェック) による品質不良
3	鉛直シアチェックによる品質不良
4	空間比較チェックによる品質不良
5	取得率チェックによる品質不良
6	資料不足による品質不良
7	その他の理由による品質不良
全8ビット	欠測

ア 品質良好

風データの品質に問題はない。(S/N比の品質は示していません。)

イ 時空間チェック (二次曲面チェック) による品質不良

各観測所において高度と時間の各方向で構成される2次元データについて、それらを最も良く近似する二次曲面を作成し、この二次曲面との差が一定値以上あるデータを“品質不良”とする。

ウ 鉛直シアチェックによる品質不良

同一時刻のデータで、高度方向に隣り合ったデータの風速が一定値以上の差を示すデータを“品質不良”とする。

エ 空間比較チェックによる品質不良

当該観測所周辺の複数の観測所における同一高度のデータを用い、周辺の観測所の平均値との差が一定値以上あるデータを“品質不良”とする。

オ 取得率チェックによる品質不良

通報するデータは10分間の平均値であるが、その平均に用いる1分値データの取得率が一定値以下であれば“品質不良”とする。

カ 資料不足による品質不良

二次曲面チェックを行う際、データ数が一定値以下であれば“品質不良”とする。

キ その他の理由による品質不良

大気エコー以外のエコー (地形、海面、航空機、渡り鳥などに起因するエコー) の影響を受けたデータを“品質不良”とする。